



2014/9/21

リケジョ 科学に触れる

岩手育成研、初の実験教室

岩手理系女子育成研究会（川村庸子会長）などが主催する「女子高生の

ための実験教室」（岩手日日新聞社など後援）は20日、盛岡市の岩手大で開かれた。理科に興味がある「リケジョ（理系女子）」の中高生20人が、身近なものを使った実験を通じて物理、科学の魅力に触れた。

同会は県内での理系女子の育成を目指して、講演会や岩手大男女共同参画推進室の移動図書事業の推奨などさまざまな活動を展開しているが、今回は初めて実験教室を開催。

同大工学部の女子学生による「工学ガールズ」や、東京工業大同窓会で行く「蔵前理科教室ふしぎ不思議（くらりか）」の協力を得て、浮力実験と振動、波の実験が行われた。

浮力実験では、ペットボトルや魚型のしょうゆ入れを使い、容器を押し下り離したりすることで



中にある物が浮いたり沈んだりする玩具「浮沈子」の仕組みに触れた。北上中学校2年の菊池夏

美さんと佐藤友莉さんは「ペットボトルを押し下り」とで、中のしょうゆ入れが沈むのが楽しかった」

ペットボトルを使った実験などが行われた教室と笑顔を見せた。

川村会長は「研究を進める上では日本人だけでなく外国人も、男性だけでなく女性もというように多様な目が必要で、女性の研究者を増やしていくかなければならない。理系を目指す女子にとって情報は少ない中、工学ガールズによって生活、進路について聞けたことも参考になったのではないかと話っていた。